

仇詒七部集

阿羅野

五

第	七
部	號
非	六
發	冊
部	內
池	書
驚	藏

中村俊定文庫  
 文庫 18  
 686  
 4





尾陽茅子た檀木堂主人荷今子集を  
 海く是はあらはせしふ何ありは  
 五の成志くまふりたるのたむひ  
 ちるくきくはは知くは猿孫く  
 ねらくくは去押あつたてくあはれ  
 くくくくくくくくくくくくくく  
 出くかかかかかかかかかかか  
 出くかかかかかかかかかかか  
 出くかかかかかかかかかかか  
 出くかかかかかかかかかかか



元禄二年 跡主  
芭蕉 拙者  
乃ららるる 梅をよむ けしき けしき けしき けしき  
とて けしき けしき けしき けしき けしき けしき けしき

元禄二年 跡主

芭蕉 拙者

荒野集目録

卷之一

花 郭公 月 雪

卷之二

歳旦 初春 仲春 暮春

卷之三

初夏 仲夏 暮夏

卷之四

初秋 仲秋 暮秋

卷之五

初冬 仲冬 歳暮

卷之六

雜

卷之七

名所 旅 述懷 恣 樂常

卷之八

釋教 神祇 祝

貞外

曠野集卷之一

花三十句

よりのこと

こ神さくくささのりお花子地山 貞室

よあさるいさるいさる花のあさる 路通

さる白雲さけあつくもれ花枝のれ 信徳

さるあさるあさるあさるあさるあさる 晨風

さるあさるあさるあさるあさるあさる 友五

山里より花の志ゆる花見の那 尚自

何より花の志ゆる人乃長刀 去來

みどり乃雲すししきむと浦し 野水

まゝ花あつ下戸引て来りいぢか 飛洞

下、花下とらあといも神ん花の取 越人

え風乃山帯おくふる枝もほし 一井

尺あきしうあまきたぬ花の庵 津寫 俊似

兄弟のいろはあきしむものい 嵐彈

ちりちりあさほぬす人た〜 舟泉

たけと教つてより花乃没 胡及

まつ花と誰う傘あいおいす 長虹

栄舟乃花咲きり花乃雨 津寫 十枝

あゝあゝなるくゆきりむの枝 改卓 鷗歩

連つたや浪きりた〜 花おめ 荷兮

疱瘡乃跡あゝいゆるもあゝい 傘下

あゝあゝや風車賣り花乃とさ 薄芝

花よさつてはく〜とぬらさ  
 山あひ乃ぞ風はり夕日より見出し  
 ねあ〜るや夜宿とさよふの雲  
 ずとあひやまつもさるるおとれ  
 獨來て交遊ひもり花散やま  
 花もよこ〜と花月おほ色とらふ  
 首お〜て世もむえと蛇さ  
 沼の〜あさる人乃結々

心苗  
 越人  
 野水  
 冬松  
 冬文  
 荷守

月をよな〜て沼のむらりゆ  
 あも人乃は家よら〜  
 檀乃女おまぬよかよらぬよ〜  
 芭蕉  
 同

杜宇二十句

ほ〜る〜  
 求〜る〜  
 名〜電乃夏月〜つ〜ん〜都〜公  
 季吟

月より青枝から流るる水は砂つ不 素堂  
 いそしきもあつて笑も楽園醜 釣雪  
 蠟燭のひらとひらくはほろとほろ 越人  
 ねひー子乃口さ目するや時を 洋島 松下  
 跡也是年おはくおろきお部公 重五  
 ほろほろ流るる水は砂つ不 柳風

あゝ人のまよふとておろきお部公  
 おろきお部公

かしら流るる水は砂つ不 嵐弾  
 晴ちもあつて笑も楽園醜 落梧  
 故為具を夜是うつや時鳥 一髪  
 三歳入ちと流るる水は砂つ不 同

流るる

かしら流るる水は砂つ不 風泉  
 嬉しやあつて笑も楽園醜 破阜 杏雨  
 あゝのやと流るる水は砂つ不 傘下

~~~~~カカク~~~~~ 同

馬~~~~~ 鈍可

~~~~~

~~~~~

~~~~~ 大津 智月

~~~~~ 李桃

~~~~~ 市凶

月三十句

十二歳

~~~~~ 梅舌

~~~~~ 湍水

~~~~~ 一雪

~~~~~ 越人

~~~~~ 昌碧

~~~~~ 津島 市柳

~~~~~ 一髪友



いこまてたんかひあまの月影野中  
長虹

峠を夜抱く月えふ那  
任他

一つを夜抱く月えふ那  
龜洞

是月をいふはたなをせり  
越人

みさやうに十二もさつら  
文鱗

是月やうはかきつはる舟  
昌碧

あきつやさうにあつては  
傘下

はらや鼓乃屋也大乃了急  
二水

見はとの也まえて人乃月見  
野水

是月乃らう

むつしや月をいふはる火も  
荷今

いつの月もあつては  
同

是月や海もねあつては  
去来

あきつや下るる下るる  
胡及

あきつやあつては  
釣雪

あきつやあつては  
一髪

十三夜

新婦の黄雲の如く霞の月影の  
松風

朝日

暮いづれ月乃氣もほし酒乃果  
荷今

二月

見る人もたしな月影の夕の風  
全

三月

何より結んたまふ似す三の月  
芭蕉

四月

夕月あんとんぐり志をいふ  
卜枝

五月

何はともえとぬきとぬき  
伊豫 一泉

六月

銀川尺蠖ふはや月影を我ら  
世崎 鶴聲

七月

秋の夕月影の  
岐阜 一泉友

雪二十句

大津より

雪の舟や船路のく歌乃と 其角  
 雪の舟の心雪をよむとぬ所を 芭蕉  
 竹乃雪をよむとぬ所をなく 荏原  
 加さるる雪をよむとぬ所を 京 加生  
 車道雪をよむとぬ所をなく 小春  
 まつ雪をよむとぬ所をなく 顔を洗はり 越人

はつ雪に戸のぬるも乃菴のぬ 是幸  
 その雪のぬるも雪の二川に 松芳  
 雪のぬるも雪のぬるも雪のぬ 二水  
 雪のぬるも雪のぬるも雪のぬ 見仙  
 雪乃雪れとぬるも雪のぬるも 岐阜 除風  
 ゆき乃日や川流るるも雪のぬるも 鷺汀  
 初雪やおれに雪のぬるも雪のぬるも 傘下  
 雪のぬるも雪のぬるも雪のぬるも 甘川

雪乃新から鮭とくるあまほし  
 雪が昔をたさやくや鷹が色  
 ちりりや淡雪がはる強飯  
 まつ雪やせきまの樓にて隣まで  
 はるゆきおのゝあまのり取  
 舟かけくくくゆきと海の雪  
 冬文  
 桂夕  
 荷兮  
 路通  
 野水  
 芳川

曠野集卷之二

歳旦

二日月のぬののきききき花のま  
 むね人のまからとかりしむ乃春  
 けつあや九千年かほくへ縄  
 松のまらと伊勢の家買人を催  
 うゝの舌連歌あつすか  
 月さきおとくまのまらとけの松  
 芭蕉  
釋 古梵  
 風鈴軒  
 其角  
 文鱗  
 去來

かゝる木又なしくてまゝある柏一晶

元龜和何とまゝの神路通

元日はゆめ加賀のす一笑

齒固又梅乃むむに木ひの部大垣如行

妙川社老又きく岐阜の虫落梧

あゝあゝくしらのまゝ龜洞

伊勢浦や清木引休せし同

ふふふ乃あゝあゝ昌碧

去年の暮ちいさのり元廣

小井子栗やひろまむ舟泉

やゝ男子秋糸をあら同

山棠又うゝ白重五

松も釣雪

月を乃初き琵琶乃木同

連一井

うゝ向ひ胡及

えねほえむこや新玉結年の海 長虹

とびを起て縄ゆちなく柳分 崩弾

さや姫也ふいみ面いつあゝあ 同

あそ美や舟の通能うんあくと 湍水

佛とらう神そ崇へてと兒と娘の 京と兒

の〜宮やと〜の思さつうあ〜ん 朴竹

うさふととたうやひむすたりと物 冬文

正月の魚乃〜らや炭きりら 傘下

くは結喜寂し〜をほ用く那 冬松

あ〜〜と松あ〜門あねあ〜や 柳風

大服と去年のま〜結白や 防川

学も結な〜ま〜舞〜年〜ねとと 大山昌勝

傘に齒乃采か〜りえ方と那 夕道

袖す〜と松の葉ふあ〜ると娘のま 梅舌

あ〜〜と入む〜も〜や〜つる大〜み 野水

眼とま〜あ〜やた〜ふ〜ら 同

ちりまをみちりてこゑをなす賢勇、越人  
 印もや濱にみち橋乃とみよさ波 同  
 志の也志は清階よみのま厚（ 荷今  
 島歳乃やまを隣りみよささ 同  
 己のやーやむしー乃まおた海の 同  
 我はま月うとにさるまの毛の 僧 般齊  
 系等式う存もよも具のまのま 貞室

初巻

ちりまつむ跡を木に割細の 越人  
 精出しーて摘とよとてぬのまの 野水  
 七草をまらへ花うとて居子の 津山鳥 俊似  
 女おくま務へみあものまのまの 加賀 小春  
 側傳了被乃たぬた儀ままの 藤羅  
 吾うーもみしーてをぬるまの 岐阜 素系秋  
 石物くつあまのま梅おしきの 玄宗

梅乃花 鷗步

むきみむむむの乳まじりて 越人

藪入志神まじりて 梅乃花 落梧

梅乃花 一髪

美よあまつじを乃す 冬松

みの山 蕉笠

網代民部の息くま

梅乃木 芭蕉

くまひは乃くまの風 若良

くまのやけひは乃くま 去來

あきほのやけひは乃くま 一桐

くまのやけひは乃くま 一笑

くまのやけひは乃くま 市柳

くまのやけひは乃くま 夢々

くまのやけひは乃くま 梅舌

くまのやけひは乃くま 野水





同

夏の雨の光をひらきつゝ

氣彈

白尾鷹

まやゆさ乃鹿つゝ

野水

蜘蛛乃井又まきぬか

奇生

立句よりあ草えこ法明金

士歳  
龜助

すこゝと親子摘きりばく

舟泉

すまゝと摘やつますや土

其角

すゝとあふ子のまかり土

蕉菴

土橋やととくまゝ

塩車

川舟やまのへつむ

冬文

はくし頭巾に

春江

蘭立乃至人池

移りてをさ

そよよと

池く移りし 傾名書おふ柳

素堂

風の吹方後よりやあさし 野水  
 何より那しとさしり折し 越人  
 さし柳さしあをるあしり 一笑  
 尺さしりさやあさし折し 小春  
 すり折し柳さ風よとさし 一笑  
 さしりささささささささ 昌碧  
 ささ折ささ髪のゆのち折し 杏雨  
 さしりささささささささ 世橋

姉ささささ牛のさささささ 杏雨  
 吹風さささささささささ 松芳  
 ささ折の地はさささささ 授遊  
 いさささ野鍛治ささささ 荷守  
 蝙蝠さささ月乃柳 全  
 昔折ささささささささ 素秋  
 さささささ後へさささ柳 鷗歩  
 菊乃ささささささささ 生松

仲春

麦の穂に若菜花を散らす嵐也 不愴

若菜花を散らす若菜の土手花のいづ 長安

若菜の花を散らす若菜の土手花のいづ 傘下

若菜花の畦うら若菜の土手花のいづ 清洞

うさくさくさくさくさくさくさくさくさく 去來

一方歳を仕舞ふふくうううううううう 昌碧

うさくさくさくさくさくさくさくさくさく 越人

廣の庭より花柳の枝のいづ 笑州

うさくさくさくさくさくさくさくさくさく 除風

手のうさくさくさくさくさくさくさくさく 一橋

うさくさくさくさくさくさくさくさくさく 冬松

うさくさくさくさくさくさくさくさくさく 一髪

うさくさくさくさくさくさくさくさくさく 野水

あふのさくさくさくさくさくさくさくさく 除風

うさくさくさくさくさくさくさくさくさく 一雪

りくくは備縄解くやる雄多や 塩車

手成つててまのりあはる陸う那 山崎 宗鑑

鳴らしてつとあひま蛇かたう肌 居梧

あつたまをむつてけうよつ陸 越人

つくす色と骨ねる者のかまう那 去來

花入とまけけくあゆく蝶の肌 洋嶋 落梧

不圖と花て後ふ花をもな陸う 洋嶋 松下

ゆふやまの角細又いふ陸う那 一井

まら蝶を児乃んおん多ひ那 柳風

桜桐の扱ふにさあうてる 胡蝶 梅餅

かやう那中をわぬはこくふ肌 吹玉

か紙芝やも扱うていり胡蝶 百歳

善書

何みえ乳まつてぬり 土 草花 忠知

ぬふくくと馬よら あ 草 荷今

わうろくの土と あ 草う那 野水

鳥をたつとほ乃とす洞の草を 舟泉

草刈て草をす三里一那 鷗歩

り蝶をたつとほ乃とす洞の草を 燭遊

麦畑乃人えはたもの境一那 杜園

まけ山や勝の月おす一那 戎之

ほろくくと山吹ちもろ勝乃存 芭蕉

松明くや月吹くけし東のい海 野水

山吹とくまのおまはあ一那 卜枝

一とくや山吹のぬくゆへ一那 岐阜 襟雪

いっはぶとやるぬをぬく一那 同 蓬雨

あそふとねくともぬ燕りな 去來

ちく自の鼻をぬくともぬ燕りな 俊似

いよふかといとぬくともぬ燕りな 長之

變乃鼻をぬくともぬ燕りな 長虹

昔昏くたてぬくともぬ燕りな 崩彈

友減て鳴きくちあ乃一那 且葉

角落りてやましくとんゆの小庵が 蕉堂

あらし降るゝ霧よふ浦の塔下が 越人

ねやも子も同じし 鶴も也 柁の所 傘下

人さあむ舟と陸との塔下、那 <sup>三編</sup>友重

ふまゆりてはあふ躑躅の所 荷今

朧夜にあうくても路よ藤のむ 兼正

篝火又夏のまじりぬ鶴舟の那 龜洞

永さ日や鐘 実のむとら地地し ト枝

永さ日や油志免本乃とら地地 野水

り春みあゝと塔下と地地し 同

曠野集卷之三

初復

こ路もかへや白きも物も終りぬ 路通

更衣襟もたれしもやたれしよ 傘下

ころもへ刀もさしやんぞうらや 扇彈

肖柏老人乃もちたまひのし山とら  
るきとらのもあむけぬ文鱗うく紙な  
とて字の終越入る持こもを  
あしらすのけ文鱗よやうらや

ぬきよ焼もあもあししんらもく 荷今



山後より

おつまへてふしむるはむらさき 芭蕉

いちばんのこころをいかにいかに 一井

傍み木乃ふしむるはむらさき 越人

切ふふらつらむらさきとけを梅木 不交

おのれはふらつらむらさきとけを木乃 藤蘿

けきむらさきとけの木へみらふふら 龜洞

むらさきとけのふらつらむらさきとけ 竹洞

ゆめひらつらむらさきとけのふら 鈍可

まげらつらむらさきとけのふら 夢々

上ヶ土よりつらむらさきとけ 玄察

枯色よりむらさきとけのふら 生林

麦がふらつらむらさきとけのふら 不知

むらさきとけのふらむらさきとけのふら 鈍可

まらつらむらさきとけのふらむらさきとけのふら 嵐蘭

鳥飛てあふれまげらつらむらさきとけのふら 落梧

一一教てあそぶるはえり夕小 岐阜 李批  
大粒か雨くこゆえー 友子おむ 東巡  
友子ひく見お拾ひぬ友子のむ 吉次

深川の居て

菴のむらゆーくならぬは  
きりーさ乃こもればえすかつ  
山嵐雪 野水

仲夏

お月おるるをせしむるは  
櫻井 尤補

川多の馬をよせははしるは  
一髪友  
窓く〜障子むの海は  
不交  
周をく〜人呼雲の形  
風笛  
をゆく越えぬはの常のぬ  
青江  
あをおむる〜むるの雲の那  
合帖  
く〜の油〜はあひるは  
ト枝  
あけて濡る油〜はあひるは  
鴨歩

〜して葎室〜あひるは

らららのやしのうへへあめあめあめあめ 秋芳

故のむねあめ梅乃一本ももももももも 小春

うやま火よあまあまあまあまあまあま 杏雨

あめのくあめ傘乃くくくくくくくくく 二水

蚊乃瘦て鎧みうへよさきりあめ 一笑

屋をみあめあめあめあめあめあめあめ 胡及

塔引てあまあまあまあまあまあまあま 児竹

足伸へく娘百合竹あめあめあめあめ 此橋

竹乃子よ行燈とけてあまあめあめあめ 長虹

笠乃時とくとととととととととととと 去來

岡杉あめあめあめあめあめあめあめ 野水

五月雨よ柳よあまあまあまあま 一龍 大伴

この比も小粒あまあまあまあまあま 尚白

あまあまあまあまあまあまあまあま 飛洞

波阜あめく

あめあめあめあめあめあめあめあめ 貞室

ねな〜取よて

あ〜ろ〜ろ〜かみ

猪舟

芭蕉

おる〜く

猪のぼろ〜舞〜舟〜情〜や 荷兮

同

な〜あ〜は 船も宿らん 猪舟 越人

是ふ〜乃 教もかまぬ 猪舟 <sup>大律</sup> 淳兒

曲江又無の〜え ぬら〜ぬら 梅餅

鴨舟鼻の〜え〜り あり〜か くれを 路通

松並み緑を〜る 復野 小 卜枝

虹乃 根を〜か〜次 野中乃 標小 鈍可

蒲花の〜花〜泥〜と〜ゆ 青乃 雨 同

荷子也 藤 藤書人 越人

冷〜也 灯の〜花 復乃 あこ 藤羅

復花也 ことり 火は 簾入 且 且 且

菴乃 あり〜

すひつゝとくこちん〜 夏は崖儀 其角  
夕ふかや秋きこいぬ〜 芭蕉  
ゆふのはの志ほむと人乃ま〜 野水  
夕息き散乃留ほ〜 借雪  
山は来て夕ふか〜 市柳  
夕息き色ちほゆ〜 長虹

暮春復

楠毛初〜 やう〜 蟬 昌碧

雲北岸 膝うけにた〜 野水  
夕ちよ干傘ぬ〜 傘下  
あ〜 夕た板もやぬ木隈 去来  
涼〜 夕さ〜 白雨あつ〜 入由 荷弓  
夕露〜 夕涼〜 や宿の〜 同  
夕〜 夕は夕あつ〜 夕〜 同  
夕とすの人は夕〜 夕涼〜 鳴曲 如風  
夕石乃石露草下涼〜 夕 俊似

涼しきや樓乃下ゆくあのみ音 全

柀燈のともやうゆし涼舟 卜枝

すしきやちきやなむの川 未學

吹ちてあめくたへ蓮、那 收阜 秀正

蓮みじ日やちやちきや 松坂 晨胤

笠をよみてあゆみ蓮くさかり 古梵

河骨くあのかやゆりあゆみ 美水

とらりとあゆみ松の古あゆみ 長虹

すしきやちきや 増 于新沖の清あゆみ 俊似

蓮あゆみ待きやあゆみ志あゆみ 文瀾

引立てて鳥にのちあゆみ志あゆみ 濠月

かこひくちを清きあゆみし清あゆみ 尚白

あゆみあゆみあゆみあゆみあゆみ 一髪

虫ほしや幕をあゆみあゆみあゆみ 收阜 卜枝

麻のあゆみあゆみあゆみあゆみあゆみ 收阜 李晨

約種あゆみあゆみあゆみあゆみあゆみ 越人

綿乃心を海く蒼く何くか  
素堂

曠野集卷之四

初秋

ちろろちや麻川あとの秋は凡 越人

梧乃我やど川うらん輝の風 圓解

松嶋雲を君のちろろ

一葉お散るあうし海にまをりし 仙化

ろひろのちろもや秋の夕ぐさ 方生

男くさ花洞織衣星おち向ふ 杏雨

秋風や志々乃ううと弦をらん 去來

涼しさとて産まてと初難那 昌長

畦道く糸相すゆすいあまの風 路馬行

すむしも通る路をむらさきり 一髪

まじしくす燈を消く暗きり 素秋

あけ雲と鴉妻を待たるとか 芭蕉

いなつ万やそののち東より西 其角

ぬまの池にわたるあまのうら 舟泉

秋風や志々乃ううと弦をらん 去來

涼しさとて産まてと初難那 昌長

畦道く糸相すゆすいあまの風 路馬行

すむしも通る路をむらさきり 一髪

まじしくす燈を消く暗きり 素秋

あけ雲と鴉妻を待たるとか 芭蕉

いなつ万やそののち東より西 其角

ぬまの池にわたるあまのうら 舟泉

秋風や志々乃ううと弦をらん 去來

涼しさとて産まてと初難那 昌長

畦道く糸相すゆすいあまの風 路馬行

すむしも通る路をむらさきり 一髪

まじしくす燈を消く暗きり 素秋

あけ雲と鴉妻を待たるとか 芭蕉

いなつ万やそののち東より西 其角

ぬまの池にわたるあまのうら 舟泉

秋風や志々乃ううと弦をらん 去來

涼しさとて産まてと初難那 昌長

畦道く糸相すゆすいあまの風 路馬行

すむしも通る路をむらさきり 一髪



ひよろしと秋の草花  
芭蕉

桐花と秋の草花  
作者 不知

草花と秋の草花  
伏見 任口

色と秋の草花  
荷今

仍人や秋の草花  
胡及

宗祇法師のことばに  
素堂

あまの秋の草花  
素堂

さしと秋の草花  
俊似

### 仲秋

かたふる鳥の秋の草花  
芭蕉

つくと秋の草花  
加賀 小春

谷川や秋の草花  
津嶋 益音

石切乃秋の草花  
傘下

芥子や秋の草花  
ト枝

麻の秋の草花  
一袋

田の秋の草花  
一泉

山崎り麻理る作りく笑たり 重五  
 紅葉あふたるまゝ 入る所の間 其角  
 去々地人をぬいひてさるるあやみ 東順  
 救世ら中 入るるあやみ 林芥  
 とももぬくぬくあやみのま 越木  
 くのあやみさるるあやみのま 宗和  
 くのあやみさるるあやみのま  
 私とぞは我たるやと秋也いかに 如賀  
 水枝

素書いかりりて

又すの宴るみぬきつゝ蓮の 越人  
 一なり芦み穂穂 防川  
 松の木くぬあてゝ秋の蝶 舟泉  
 まらとて寝る池ぬ及ぬのま 胡及  
 んよたからぬ市のまぬら那 暁龍  
 月のみまきりまぬら  
 といえ旅路るら 其角

うーのよ

いふいふもらしてふふふふをうけうま 芭蕉

いそがしき野有秋のあはれ星 加賀 一笑

暮秋

あふれゆく秋しづか菊乃白き花 巴丈

まじりてみればあそびのたね 昌碧

しづかきく秋のあはれをうけうま 越人

しづかきく秋のあはれをうけうま 曉庵

荷さうり室へ移れし秋のあはれをうけうま  
とくし菊はあはれをうけうま

あふれゆく秋のあはれをうけうま 其角

あふれゆく秋のあはれをうけうま 同

あふれゆく秋のあはれをうけうま 二水

あふれゆく秋のあはれをうけうま 伊豫 子周

あふれゆく秋のあはれをうけうま 濃列 其夕

11

11

深き我が木のうらみすち種別梅と  
加生  
草花種やまのくまのうらみ  
あはれ 路通

曠野集卷之五

初冬

あはれうちのまのいよこはの時雨や  
湖春

あはれあはれあはれあはれあはれ

あはれあはれあはれあはれあはれ  
尚白

あはれあはれあはれあはれあはれ  
端水

あはれあはれあはれあはれあはれ

あはれあはれあはれあはれあはれ  
荷今

あはれあはれあはれあはれあはれ

人まほしきもの

と物さね共しうものやえし  
落格

物さねの下はのすきしゆれ  
吹玉

後し字さうのし集さるるしゆれ  
傘下

こか〜よ二日の月のぬまち  
荷今

つぢつて橋のぬまちのぬまぢり  
一髪

このま〜くぬまをぬまぬま  
同

批把乃花人のつらぬく木陰のぬ  
同

子条乃心ちものつらぬくぬま  
李晨

梨木能も志しゆぬまぬま  
野水

蓑虫乃いつらぬぬまぬま  
昌碧

麦ちさ〜し青簾さぬまぬま  
全

乃とら〜や麦さく比の衣うへ  
一升

強女のぬまぬまぬまぬまぬま  
落格

石白乃破〜お〜やしぬ花  
胡及

青く〜ぬまぬまぬまぬまぬま  
文鱗

けしきしき物籠よりも蒸る水  
 上枝  
 多粘之風乃体よりなき野水  
 洞雪  
 道徳をうらめしき人ゆる枯木  
 一髪  
 層の底より石きけまつくかゆ我水  
 松芳  
 こかきく吹きく我なり層布  
 杏雨  
 雪も揚れぬくひきくかき水  
 蕉笠

寒月

福のまゝく度くく月夜面白  
 野水

あと清乃大根あけ月あき  
 俊似

仲冬

ねろしきく鐘きつうあけき敷  
 勝吉  
 志ら信らつまつたきくあけ  
 皇治  
 搔くもる馬糞にきくあけ  
 林芥  
 柴みきくあけほくくあけ  
 杏雨  
 けしきしき物籠をわらうあけ  
 宗之

まがたねんらん乃宴みこむらり 杜園

み棚乃葉花あまらるる水つ部 勝吉

涼き池水あまきり歌きり葉 俊似

つきはらとてまの葉あまきりる水 除凡

打木まきく何あまきりる花水柱み 夜舟

兼題 雪舟

峠とて雪舟あまきりる木水 菖彈

ぬ川くまきり雪舟あまきりる水 荷今

あまきりて雪舟あまきりる 長虹

馬を登ると雪舟引あまきりる水 一井

雪舟引也休むとあまきりる水 龜洞

つまのこくとおまきりる雪舟の 言咄

青海や羽白黒鴨赤 忠知

舟又とて水又あまきりる水 龜洞

朝鮮をまきりる水あまきりる水 村俊

井を掘ると水あまきりる水あまきりる水  
水とてあまきりる水あまきりる水

汗かして谷々突くむ氷室の 冬松  
 海風鳴乃壘埋きく氷室の 利重  
 炭竈乃穴物さくやうきり 龜洞  
 膝高なはくちやむむ 塩車  
 火のほして後日くあり地を椿 <sup>加賀</sup> 一笑  
 いらくー尻起せばくはくも 龜洞  
 冬後アはくよりそらんはくら 芭蕉

歳暮

餅つおやゆもたすほくひ 季下  
 吾書つくく史地ものまひ <sup>年の暮</sup> 尚白  
 わら花の後をすくまへ <sup>ちとぬへ</sup> 野水  
 もも <sup>お</sup> 櫓つ <sup>く</sup> け <sup>る</sup> 葉 <sup>木</sup> 細 <sup>水</sup> 亀洞  
 煤 <sup>も</sup> ひ <sup>梅</sup> <sup>く</sup> <sup>ら</sup> <sup>ん</sup> <sup>の</sup> 瓢 <sup>ろ</sup> 瓜 一曼友

本曾の月こくく人みまひん  
 として杯の宴もひれたく  
 三年の暮をいじあつたかたつてや  
 せうしん



さーのく神杯能實河さるが 荷今  
川松とらとて路一存ひ 内習  
田仍く胤造あとのまき 龜洞

